

# 第1章 私たちの長崎県

## 第1節 郷土のすがた

みんなで考えてみよう!

私たちの長崎県は  
どのような姿をしてい  
るのだろうか?

※令和5年2月28日公表の国土  
地理院資料による。測量技術の  
進歩により数えられる島の数が  
増え、長崎県の島の数も従来の  
971島から、1,479島となりました  
(日本の島の数も14,125島と  
なりました)。

みんなで考えてみよう!

長崎県の漁業には  
どのような特色がある  
のだろうか?



### 1 長崎県のすがた

私たちの長崎県は、半島と島からなり、海岸線は出入りが多い。

北に位置する壱岐や対馬、西方に連なる五島列島をはじめとする島々は1,479島\*で、そのうちのおよそ70島に人が住んでいる。

陸地の面積は約4,100km<sup>2</sup>で、13市4郡（8町）に、およそ127万人が生活している。



長崎県の位置

#### (1) 最西端の長崎県

長崎県は、日本列島の最西端<sup>さいせいたん</sup>、九州の北西部にあって、壱岐と対馬は、九州と大陸との間に飛び石のように位置している。

そのため、古い時代からわが国と大陸とのかけ橋としての役割を果たすことになった。また、西洋文化を受け入れる窓口として、長崎県の特徴を生みだすことになった。

#### (2) 海洋県長崎

長崎県のほとんどの市町が海に面しており、出入りの多い海岸線の総延長は4,171kmにもおよぶ。この長さは、長崎と北海道を往復する長さ<sup>おうふく</sup>とほぼ同じで、北海道につぎ、全国第2位（長崎県統計年鑑 R.4）である。

この長い海岸線は、日本海流（黒潮）から分かれて日本海に抜ける対馬海流に洗われている。暖流であるため、冬は暖かく夏は涼し

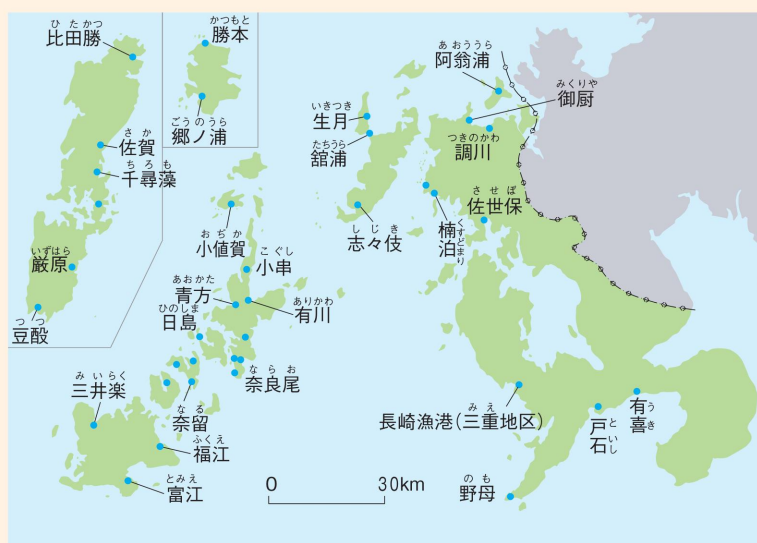
## MEMO



海に面した長崎県



長崎漁港 (提供:長崎港湾漁港事務所)



長崎県の主な水揚げのある港

い、住みやすい海洋性の気候をもたらしている。

人々は、豊かな海と出入りの多い海岸線を生かし、温暖な気候のもとで特色ある産業を発展させてきた。

長崎、奈良尾（南松浦郡新上五島町）、館浦（平戸市生月町）などは、世界的にも有数の漁場である東シナ海を主な漁場とする沖合漁業の基地として栄えてきた。そのほか、県内の各地では沿岸漁業も盛んである。

静かな入り江では、養殖もおこなわれている。大村湾や浅茅湾（対馬）の真珠、伊万里湾、橘湾のふぐ、有明海沿岸ののり、わかめ

## MEMO

などは、その代表である。

全国からみた長崎県の漁業の状況は、漁港の数（漁港一覧 R5. 4. 1 水産庁）、漁船の数（2018年漁業センサス 農林水産省）漁業就業者数（2018年漁業センサス 農林水産省）において北海道について全国2位となっており、非常に盛んであることがわかる。



九十九島

(©SASEBO)

長崎、佐世保、松浦などの大きな港には、優れた施設をもつ魚市場があり、わが国を代表する水揚げ漁港となっている。

水深のある入り江には、大小さまざまな造船所があり、そのほとんどは、中小漁船の建造や修理を主とする小さな造船所である。一方、20t以上の船舶を造ったり修理したりするものもある。長崎市および佐世保市、西海市には、近代的設備をもつ大きな造船所がある。中でも三菱重工業長崎造船所は、年間の進水量で、1956年から1976年まで世界第1位を21年間も続けた。

また、リアス海岸の美しい景観は、人々の心をなごませるとともに、多くの観光客を集めている。五島列島の変化の多い海岸線や九十九島に代表される西海国立公園をはじめ、壱岐対馬国立公園や玄海国立公園など、海の景色にめぐまれている。

このように本県は、生活の糧を得るうえで海とかがわりが深く、えびす祭やペーロンなどの地域の伝統的行事も漁の時期を考えておこなうなど、特色ある風俗と文化を育ててきた。

| 年次     | 世帯数(戸)  | 人口(人)     |
|--------|---------|-----------|
| ※昭和15年 | 268,750 | 1,370,063 |
| ※22    | 311,457 | 1,531,674 |
| ※25    | 327,419 | 1,645,492 |
| ※30    | 347,589 | 1,747,596 |
| ※35    | 380,044 | 1,760,421 |
| ※40    | 387,838 | 1,641,245 |
| ※45    | 407,151 | 1,570,245 |
| ※50    | 435,477 | 1,571,912 |
| ※55    | 470,927 | 1,590,564 |
| ※60    | 489,492 | 1,593,968 |
| ※平成2年  | 503,741 | 1,562,959 |
| ※7     | 529,452 | 1,545,045 |
| ※12    | 544,878 | 1,516,523 |
| ※17    | 553,620 | 1,478,632 |
| 18     | 557,627 | 1,466,512 |
| 19     | 560,718 | 1,453,740 |
| 20     | 563,769 | 1,441,451 |
| 21     | 567,190 | 1,432,236 |
| ※22    | 558,660 | 1,426,779 |
| 23     | 561,429 | 1,417,282 |
| 24     | 564,122 | 1,407,904 |
| 25     | 565,490 | 1,396,461 |
| 26     | 567,752 | 1,385,570 |
| ※27    | 560,720 | 1,377,187 |
| 28     | 573,173 | 1,364,973 |
| 29     | 562,361 | 1,353,550 |
| 30     | 561,618 | 1,339,438 |
| 令和元年   | 561,321 | 1,325,205 |
| ※2     | 558,230 | 1,312,317 |
| 3      | 559,948 | 1,296,657 |
| 4      | 558,334 | 1,282,571 |
| 5      | 558,149 | 1,266,334 |
| 6      | 558,734 | 1,250,705 |

長崎県の人口推移

(各年10月1日現在 ※は国勢調査による)

「人・産業・地域を結び、新たな時代を生き抜く力強い長崎県づくり」  
に向けて市町と協力していろいろな事業をおこなっている。

### (3) 変わりゆく長崎県

わが国では、昭和30年代から始まった経済の急激な成長とともない、人口の大都市への集中が起こった。

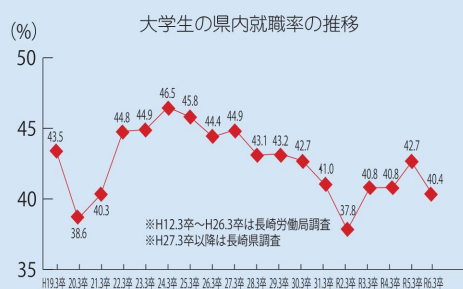
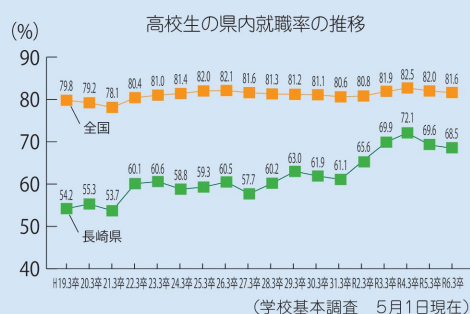
長崎県でも、若い人の県外などへの流出が進み、島を中心に高齢化や過疎化がみられる。

多くの若者がふるさとに愛情と誇りを持ち、関わり続けることができるふるさとをつくることは県民の共通の願いであり、県や市町に与えられた大きな課題である。

令和6年3月に卒業した高校生や大学生の県内就職率は高校生68.5%、大学生40.4%であった。そこで、県内を卒業した高校生や大学生の県内就職率の向上と併せて県外進学者の本県就職を促すために県では、本県に生まれ育った若者が安心してくらせるように、

みんなで考えてみよう!

長崎県はどのように  
変わっていくのだろうか?



島と本土を結ぶ交通網の整備も進み、平戸大橋(平戸島ー本土)、生月大橋(平戸島ー生月島)、福島大橋(松浦市福島町ー佐賀県伊万里市)、若松大橋(若松島ー中通島)、大島大橋(西海市大島ー本土)、鷹島肥前大橋(松浦市鷹島ー佐賀県唐津市)、伊王島大橋(伊王島ー本土)を建設するなど、道路整備が進められている。また、

みんなで考えてみよう!

各交通機関の所要時間  
について時刻表を用い  
て調べてみよう

壱岐，対馬や五島をはじめとする島々にはフェリーや高速船が通い，航空路も開かれるなど，交通手段の確保と移動時間の短縮をはかる努力が続けられている。

また，九州新幹線西九州ルート未整備区画の検討や，長崎空港を利用し輸出入を盛んにする計画も進められている。

交通網の整備は，人々の移動の範囲を広げて，人口が都市部に集中することをやわらげるとともに物資の速い輸送を可能にし，地域の特色ある産業を育て，県内への企業や工場などの進出をうながしている。

1980（昭和55）年から分譲を開始した諫早中核工業団地には，2017（平成29）年現在140以上の企業があり，約8,000人の人々が働いている。このほか，佐世保テクノパークや大村ハイテクパーク，東そのぎグリーンテクノパークや波佐見テクノパークなどの先端技術工業団地づくりも進められている。

1992（平成4）年にオープンしたハウステンボスは，古きヨーロッパの町並を再現したリゾート施設であり，多くのアトラクションや様々なイベントにより観光客を集めている。

農業・防災分野での代表的な事業は，国営諫早湾干拓事業である。この事業は1986（昭和61）年に着手され，2008（平成20）年に完了した。この事業によって造られた約700haの干拓地では，大規模で生産性が高い農業が展開されており，養分が豊富な干拓地の土を活かして，環境にも配慮した農業が行われている。干拓地の土は養分が豊富にあるため，野菜や花の栽培に適している。

また，諫早湾は，干満の差が大きく，潮の流れによって干潟が成長し，古くから洪水や台風による高潮といった災害が繰り返されていた。この事業で造成された潮受堤防によって高潮を防ぎ，潮の干満に関係なく調整池の水位を常に低く保つことができるようになった。これにより，低平地からの排水がしやすくなり，洪水時に家や農地が水に浸かりにくくなった。



諫早湾干拓地と調整池

（提供：県諫早湾干拓課）